

## 特集3

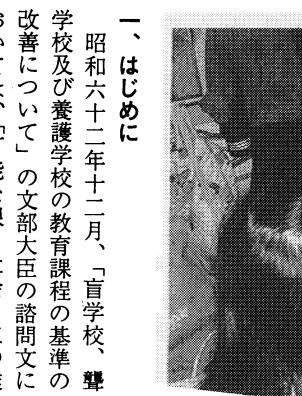
# 社会参加・自立を目指す 養護教育の推進

仕事

宮本正明

働きながら人と交わる生活のできるあります。  
りがたみがよくわかるものです。  
次に、障害者の書いた詩を紹介します。

箱のふたを重ねるとき／  
それが箱のふたをとろうとする  
とき／そう思つただけで／あれの  
手はもうふるえてくる／ふるわせ  
ないで おこうと思うと／なあ ふ  
るえくる／そして 体中が カた  
くなる／そして ひっくりかえつて  
しまつ／石のよう／



### 一、はじめに

昭和六十二年十一月、「盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について」の文部大臣の諮問文においては、「可能な限り社会自立の達成を図る」となっていたものが、翌六十三年十一月の答申では、すべて「社会参加・自立」という文言に変えられています。このことから児童生徒の障害が重度・重複化・多様化したことに対する配慮がうかがい知れます。

折しも、「国際障害者年にちなんだ「障害者の十年」の中間に当たって策定された「後期重点施策」の具体的な提

案の一つとして、「長寿・福祉社会を実現するための施策の基本的考え方と目標について」（厚生省・労働省、昭和六十三年）が公表され、その中で「リハビリテーション及びノーマライゼーションを基本理念として…心身に障害のある者が住みなれた地域社会の中で自立し、社会参加で生きるようにする」方向づけが示されています。

今後、養護教育の推進に当たってはこうした社会的動向も見据える必要があり、特殊教育諸学校や特殊学級においては、通常の学校（小・中学校等）・学級との交流をより一層充実させることが緊要です。

### 二、心身障害児の願い

学校教育が、障害の重い児童生徒を対象とするようになつたこともあって、

卒業時の就職率は、年々低下してきています。本県の養護学校中学部卒業者の就職率は、四パーセントそこそこであり、養護学校（精神薄弱）高等部卒業者の就職率でさえ四十パーセントという現状です。肢体不自由、病弱の各養護学校高等部卒業者の就職率は、更低く、二十数パーセントにとどまっています。

これは、生産部門の空洞化現象や、パート就労、ラインの機械化など雇用情勢が変化する中では、身体障害者雇用促進法が改正されても、まだまだ困難な状況にあることを示しています。

心身に障害のない者にとって、働きながら人と交わる生活の大切さについて、普段、ほとんど意識することはあります。ちょっとした病気で入院したりしたとき、毎日出かけて行って、

たつた 一つの箱を ところとした  
だけなのに／ぼくの体は いうこと  
をきかない／腹が立つて／なきな  
くて／煮えくりかえつてくる／脂汗  
が、たらたらと／ててくる／悲しくな  
つて／やめたくなる／でも あれは  
もう一度すわりなおす／そして ま  
た 箱に手をのばす／そして また  
／あれの手は ふるえだす

何度も力こ／やつと あれの手は  
箱にとこく／うれしい／やつと  
がとどいた／それはもう／あれにと  
つたら／地球をひっくりかえすほど  
の仕事なんだ